

柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会  
《松浜中学校区》

日時：令和6（2024）年3月27日（水）午後6時30分～8時

会場：松波コミュニティセンター

**司会**：本日は多くの方からご参加いただきまして大変ありがとうございます。ただいまから柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会を始めさせていただきます。本日の進行を務めさせていただきます防災・原子力課の吉原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日の懇談会の終了時間は、午後8時を予定しております。会の円滑な進行にご協力くださいようよろしくお願いいたします。会議に先立ちまして皆様にお知らせとお願いがございます。会の途中、スタッフが写真撮影と録音をさせていただきます。写真につきましては、広報かしわざきや市のホームページに掲載するためでございます。録音は議事録を作成するために使用させていただきますのでこの点、どうぞご理解いただければというふうに思っております。また、報道機関による写真、ビデオ撮影がございますので、併せてご理解願いたいというふうに思います。それでは、まず初めに市長の桜井雅浩よりご挨拶申し上げます。

**市長**：はい、皆さんこんばんは。今日は本当に暖かな日差しが差し込んでいましたけど、私は昨日は東京に1日行ってまいりましたけれども、寒い雨が降っている東京でございました。柏崎もそうだったと聞いておりますけれども、いずれにせよ、三寒四温という言葉もありますけれども季節の変わり目に皆様方それぞれ年度末も含めて、お忙しい中、お時間をお作りいただきまして、この原子力発電所の再稼働を巡る地域懇談会にお越しいただきましてありがとうございます。

今日は8時までというふうな時間設定でございますけれども、概ね時間の内訳は、30分ほど、私自身の原子力発電所に対する考え方、また再稼働に対する考え方をお話し申し上げて、残りの1時間で皆様からご意見を伺ったり、またご質問を承ったりという時間帯にさせていただきますので、ご理解いただきたいと思っております。

今日はこの松波コミセンで、松波地区、荒浜地区、高浜地区の皆様方から中心にお集まりいただきました。いつもの地域懇談会と同じように、私も皆さんご承知のようにこういう性格です。率直な意見交換をさせていただければありがたいなと思っております。

まず、ちょっと座らせていただきながら、お話をさせていただきたいと思っております。まず皆さんのお手元の方に2枚のプリントが渡されたと思っております。原子力発電所に関わる事実関係○・×・△、柏崎・新潟県・日本と書かれたものと、上の方に、柏崎市（新潟県）ニュースリリース報道発表2022年8月24日と書かれた2枚のプリントでございます。

基本的に○・×・△の方のプリントを中心にさせていただきたいと思っておりますけれども、その最初に書いてありますように、私の原子力発電、また再生可能エネルギーに対する関する考え方は別紙に書いてあります。その別紙が、この柏崎のマークのついた夕日のマークのついたこちらでございますので、まずこちらは私の一番大事なところですので、今日のお話しの大事なところですので、ここに全て私の考え方が書かれていますので、これは朗読をさせていただきますので、ご容赦ください。

本日、これは実は2年前です。1年半前、2022年、一昨年の8月24日に政府、国の方からGX グリーントランスフォーメーションという実行会議において、原子力発電所のことについて方針が出たものですから、つまり国の方針が出たものですから、国の方針に対して、私がどういうふうに考えるかということコメントしたものでございます。

- ① 再稼働の方針に、改めて柏崎刈羽 7、6 号機の名前が含まれるとするならば必然。
- ② 国の方向性、「安全性の確保を大前提とした上での原子力の最大限活用」が示された以上、新潟県におかれましては、「3 つの検証」について、行政手続法の観点からも、明確な結論を早期に出し、原発、再稼働問題の議論を始めて頂きたい。
- ③ 稼働標準期間を 40 年から 60 年に延長する方向性、検討も、日本のエネルギーセキュリティ、また、気候変動、地球温暖化を防ぐという原発の環境性能を考えても、海外の事例を勘案しても妥当
- ④ 原子力規制委員会による安全審査などに長期間を有している現状を鑑みると、40 年の期間から、審査期間、柏崎刈羽のように中越沖地震などで止めざるを得なかった期間、つまり原子炉稼働により放射化されなかった期間を減ずるのが合理的ではないかと思うが、この点にもしっかりとした基準が求められる。
- ⑤ 私自身は 1~7 号機全ての再稼働は経済的にも、安全面からも合理的ではないと考える立場なので、従来申し上げているように東京電力には 1 号機~5 号機の廃炉計画を出してもらいたいという考えに変化はない。もちろん、5 つ全てを廃炉してもらいたいということではない。
- ⑥ アメリカ合衆国においても、1 立地点で 3、4 の原子炉を有しているのが最高であり、福島事故を経験し、かつアメリカ、ヨーロッパ、中国などと比べても大規模地震が起きる確率がけた違いに大きい日本においてはエネルギーセキュリティ、環境性能を考えてもなお、原発は制約的であるべき、というのが私の考えである。
- ⑦ リプレイス、新增設の議論が出てくることは、ウクライナ情勢、エネルギー価格の高騰、経済、国民生活への影響を考えると、一般論として考えれば、これも自然な流れであると考ええる。
- ⑧ 柏崎刈羽原子力発電所の 1 立地点、柏崎市の市長として、この 53 年間原発賛成、反対と議論し続けてきた歴史に鑑みると、今、この時点でリプレイスだとか新增設などということは言える段階ではないと考える。  
例えば、50 年間言われ続けてきた「トイレ無きマンション論争」核燃料サイクルに明確な方向性、光が見えない。六ヶ所村の使用済み核燃料再処理施設は 26 回目の竣工延期である。日本が未だ先進国だとするならばあり得ない事態である。むつ市、青森県の苦悩を見るとき、原発立地点として、さあ、原発、どんどん行こう、等とは到底言えない。  
柏崎刈羽の使用済み燃料プールは全体で約 81%が埋まっている。再稼働を目指している 7 号機のもは約 97%、6 号機のもは約 92%埋まっている。
- ⑨ バックエンド問題も、敢えて言うが、寿都町、神恵内村の「男気」に頼るようでは国のエネルギー政策とは言えない。
- ⑩ 本当に腰の据えた国民的議論を、早期に、そしてしっかりとしていただきたい。国の存亡をも占うエネルギー政策を「これを機会に」「やっつけ仕事」ではいけない。納得がいく議論がなされ、結果が出されたとするならば、国がこれまで以上に、原発の科学的、合理的安全の確保を行い、住民が安心、かつ豊かな生活を享受できるような施策展開、原発の集中リスクの軽減、洋上風力発電の海底直流送電など再生可能エネルギー供給計画への柏崎市の参画等を担保していただけるならば、柏崎市はこれまで以上に国のGX、エネルギー政策の一端を担う覚悟はある。

といった文章を、約 1 年半前、一昨年 8 月 24 日に出ささせていただき、ホームページ上に今でも載っております。かつ、この文章を、先般、原子力発電所の再稼働を巡って、経済産業大臣、今の齋藤健大臣からお電話がいただいたとき、大臣にも手元にこのプリントをお持ちいただいて、私は特に⑤番⑥番は重要です、私の考えですということを齋藤大臣にも電話でお伝えをしたところでございます。

そういった意味で、私自身はこの○・×・△のプリントに戻っていただきまして、私自身は、

皆さんご承知のように4回、市長選挙に出ております。最初の2回は落選です。しかしそのときから私が申し上げていることは、エネルギー政策、原子力政策には全く変わりはありません。原子力発電所は重要である。今のこの時代には、しかし徐々に確実に減らしながら、原子力発電所だけに頼る柏崎ではなく、再生可能エネルギーをも柏崎の産業にしていくべきであるということ、4回の選挙でずっと変わりなく申し上げてまいりました。その間、福島事故が起こり、やはりその考えを新たにし、新たにしようというのは、さらにやはり原子力発電所の潜在的なリスク、危険性といったもの認識し、再生可能エネルギーをもっと力を入れなければいけないということで、3回目4回目、つまり私にとってみれば、初めての当選をさせていただいた市長選挙、2回目の当選をさせていただいた約4年前の選挙に勝たせていただいた。そのときにも、原子力発電所の再稼働には意義がある。かつ、そこにとどまらずに、再生可能エネルギーをも柏崎の産業にしていくと言って、前回の市長選挙も当選をさせていただいたところでございます。そこではご承知のように、前回の市長選挙は、対抗された方は完全に再稼働は反対であるということをお話されて、立候補された方との戦いでありました。私はもちろん、市の政策、重要な部分は、エネルギー政策だけではありません。高齢者の問題、子供たちの教育の問題、様々ありますので、原子力発電所の政策だけを申し上げていたわけではありませんけれども、しかし、何度も私自身は、原子力発電所の再稼働は意義があると申し上げて、そして、対抗された立候補者の方々は、再稼働反対であると表明されて選挙戦があったということは、これは事実であります。そういった意味で、もう一度、○・×・△のプリントに戻っていただいて、事実関係、まずなぜ私が再稼働に意義があるのかというふうに申し上げるその理由を少し詳しく説明させていただきます。

まず事実関係と書いてある一番上に書いてあるポツは、23.4兆円、2年ほど前では21.5兆円でした。福島事故における補償、廃炉費用、また復興に関する費用が23兆円余りもかかるということでもあります。

このうちの17兆あまりが、東京電力が負担する分になります。残りが、国が負担をします。国が負担をするというのは、私や皆さんを含めて、国民が負担をするということです。つまり、福島事故に関する保障、廃炉復興に関して、今の段階で23兆4000億かかるけれども、そのうちの17兆あまりは東京電力が担い、残りは国が担う。

ちなみにその東京電力は皆さんご承知のように、今、その半分以上の株式は、国が持っています。原賠機構という国が持っていますので、実際に東京電力という会社は株式会社ですけれども、今、国の会社であると。半分以上の株式は国が持っていますから、そういったことも含めて、この23兆4000億というお金をやはり工面しなければいけない。もし私達が東電には、もう払ってもらわなくていいと言い、国民が等しく、23.4兆円を払おうというのであれば、東電に原子力発電所を例えば再稼働してもらわなくても、いいことになるかもしれません。

なぜならば、原子力発電所を一基、今動かそうとしているのは、135万kWですけども、100万kW級の原子力発電所1基が1年間動くと、1年間で約1100億円の利益が生まれると言われています。そういったことを積み重ねながら、東電にも、自らが起こしたこの事故の責任を取っていただくということを含めて、矛盾してます。原発の事故を起こした東電が、そのお金を賄うために原発を動かして、お金を稼がなきゃいけない。非常に矛盾している話です。しかし現実です。

それから、裏の方をご覧ください。裏の方に円グラフと棒グラフ、横になってる棒グラフがあります。上にある円グラフは、ちょっと年度が違うんですけども、日本のエネルギー構成です。つまり、石炭、LNG、天然ガスですね。それから石油、足し算をしますと、約70%、その他の火力を含めると、円グラフ、石炭、LNG、石油火力含めると約7割以上が、日本の電力は今、使っている電力は火力発電で作られています。

原発は止まっていますから少なくとも東北電力管内も、その結果CO2がどんどんどんどん出て

いるということです。下の主要国の電源構成を見てください。横の棒グラフです。上から中国、アメリカ、インド、ロシアとあって、日本があります。

今度は横に見ていただくんですけど日本の欄 31.0、3.7、石油、34.6、天然ガス、そして6.8が原発になります。つまり34.6までは、つまり、火力発電、つまりここでも7割が、日本が火力発電によってCO2を出しながら電力を作っているというのがよくわかるだろうと思います。

そうしますと、上から中国から下、イタリアまでありますけれども、主要国の中でCO2を出して発電している火力発電の割合が、日本が一番高いということです。中国よりも高いということです。アメリカよりも高いということです。

これが今の日本の電力を供給している。7割以上が火力発電、CO2をどんどんどんどん出している。地球温暖化の原因と言われるCO2を出し続けながら電力を作っているというのが今の日本の現状です。ついでですからその下に電力料金、日本列島が書いてあって、関西の割安さが際立つと書いてあるのは、関西電力は福井の原子力発電所が動いています。

ここに書いてありませんけれども九州電力も原子力発電所が動いています。九州電力管内と関西電力管内は電気料金が安いです。右側の方、黒く囲まれた東北電力、東京電力、関西電力と書いてある左側の日本列島の方は家庭用の電気料金です。

右側の囲みの部分は、産業用の電気料金です。去年の比較ですのでもっと半年ほどずれていますけども、同じ条件で比べた場合には、東北電力では、つまり私達柏崎を含む東北電力管内では65万5770円かかります。関西電力は53万1780円、これだけ違います。

ひと月これだけ違うわけです。12万円ほど違います。というのが、今の柏崎を含めた東北電力、もしくは東京電力原子力発電所が動いていないところの実態であります。

表に戻ってください。心配だと、もちろん福島事故があって心配だという方もたくさんおられます。

もちろんそうです。皆さんのお気持ちもそうだろうと思います。そこに福島事故における放射線被ばく、これは公平に国連の原子力放射線に関する国連科学委員会が出したものです。2020年、2021年、報告したものです。

福島県民の健康被害で、事故による放射線被曝に直接起因すると思われるものは記録されていない。これは原発推進団体のお医者さんが出したのものではなく、原発反対の方々が出したものでもなく、国連の科学委員会が出した報告書です。

下に書いてあるのは事実、お子さんの被ばく、また甲状腺がん、白血病、想定されながんの増加が見られそうな書かれているのが国連の科学委員会の報告であります。

それから、能登半島の地震、この前の元日の地震で、皆さん心配されただろうと思います。能登半島の地震が起こったときに、みんな潰れたじゃないか、うちが、屋内退避なんかできないじゃないかと知事も含めてお話されています。しかし、数字を見ていただきたいと思います。あえて固有名詞何々市ですとか何々町と挙げませんが、石川県の県内における、いわゆる住宅の耐震化率は46%から64%ということです。

翻って、柏崎は89%の耐震化が進められています。これは中越地震や中越沖地震を経て、ここまで上ったものだというふうに思っています。それから、柏崎市が今、89%、ちなみに、長岡市も90%耐震化率です。上越も87%です。

今申し上げたように、柏崎刈羽原子力発電所の周辺自治体は、石川県の原子力発電所の周辺自治体と比べて、一般住宅の耐震化率は30ポイントから40ポイント上だということであり、もちろんこれによって、倒れるうちがなくなるということではありません。

しかし少なくとも、石川県よりも耐震化率はずっと上を行っているということだけは事実であります。それから、能登半島地震の割れ残りの断層が佐渡沖にあって、それが地震を引き起こして、地震津波が3mの高さでくると言われています。

しかし、新潟県の想定、これからちょっと前の方ご覧いただきたいと思いますが、ちっちゃくて申し訳ありません、今映っているのは松波です。松波のこの肌色に見えるところ海岸線

の部分、ここが今回、能登半島地震の割れ残りの部分では 3m の地震が来るというふうに言っていますけれども、県のシミュレーションでは、松波地区 5.5m の津波が来ると、5.5m の津波が来たとしてもこの色がついてるところまでしか来ませんよというのが、新潟県のシミュレーションです。

ですから、色がついていない白いところに住んでいらっしゃる方は、基本的には津波は来ない。ですから、この前の説明会でも申し上げましたように、コミセンに避難していただいて大丈夫ですよということです。

この辺、確かに曲がりの部分もありますけれども、少なくともここに皆さんもご承知のように、堤防もあるわけですので、住宅地の方には来ないという形になっております。次が、松波ばっか出してって怒られそうですので、荒浜も同様です。荒浜は、4.7m、今回の能登半島の残りで 3m 地震予測されてますけども、それよりもさらに厳しく 4.7m の基準水位をしても来ないと、それから高浜地区に関しても、宮川、大湊、高浜コミセン、ここも 4.1m の想定ですけども想定しても来ないと、いうところです。

それから、最後に椎谷も基本的に、4.5m を想定しても、ここまででとどまると、いうのが、新潟県のシミュレーションであり、このことは、皆さんのご家庭にあるこの防災ガイドブックにそれぞれ書いてあるということでございます。

あともう 5 分ほどですいません。それから東北電力、今使っている電力は、残念ながら東京電力の原発の電気ではありません。東北電力の電気です。東北電力も原子力発電所を持っています。書いてありますように、宮城県の女川にあります。

ご承知のように、東日本大震災では女川も非常に大きな被害を受けました。亡くなられた方も多数おられます。しかし女川の原子力発電所は大丈夫でした。実際に女川原子力発電所に地震のときに避難された方もいらっしゃいます。

その女川の原子力発電所は今年の 9 月に再稼働をする予定になっています。既に宮城県の知事、女川町の町長、石巻市の市長の事前了解を得ています。つまり、9 月以降、女川の原子力発電所で作られた原子力発電所による電気が、柏崎にも、基本的には流れてくる。

よく柏崎刈羽原子力だと、自分のとこで使う電気じゃないのになんで私達ばかりこんな苦労しなきゃいけないのというふうにおっしゃるかもしれません。同じように、柏崎が使う、新潟県の人たちが使う電力の原子力発電所の再稼働に関して、宮城県の知事と女川の町長と、石巻市長は、安全性を確認し、事前了解を既に終わらせています。

それからポツの最後に書いてあります。これは、そんな当たり前じゃないと言われるかもしれませんが、東京電力の原子力本部の方々が約 300 人、柏崎刈羽に引っ越してこられます。駅前のエネルギーホールに新しい建物を建てて、そこで仕事をし、柏崎で生活をさせていただくことになりました。

これは東京電力の自らの責任を明らかにする原子力本部を柏崎駅前へ持ってくるということは、その表れだろうというふうに考えております。下の○×評判、ご覧いただく通りです。先ほど申し上げましたように、原子力発電所、○もあれば×もあります。

しかし私は、冒頭申し上げたように、当面の間、柏崎にとっても、新潟県にとっても日本にとっても世界にとっても原子力発電所の再稼働というのは意義があるというのが私の考え方でございます。○のところには 5000 人から 6000 人の方々が働いていらっしゃいます。うち 79%の方が県内の方です。5000 人 6000 人の働いていらっしゃる方々のうちの半数以上 54%が柏崎の方です。もちろん、国からの交付金や固定資産税の財政的なメリットもあります。一方、先ほど申し上げましたように、地震が起こる国であるということは、やはりマイナスです。使用済み核燃料の最終処分地がまだ決まっていないということもマイナスです。いろんなマイナスがあります。

しかし私は、今の時点ではプラスの方が大きい、○の方が大きい、多いだろうというふうに考えるのは私の考え方でございます。

ちょうど 30 分ほど経ちましたので、あとは、皆様方から積極的な、そして率直なご質問なり、またご意見を賜りたいというふうに思っております。よろしくお願ひいたします。それではここから参加者の皆様からご質問ご意見の方をお受けしたいというふうに思っております。

**司会：**1 問ごとに市長からお答えをさせていただきます。時間は繰り返しになりますが、午後 8 時ごろをめぐりよろしくお願ひいたします。ご発言いただく際には挙手いただきましてスタッフの方がマイクをお持ちしますので町名とお名前をおっしゃってからお話しくださいませうよろしくお願ひいたします。それでは、いかがでしょうか。

**質問者：**はい、私、この地区ではなくてですね、瑞穂中学校地区の方なんですけども、仕事で来れなかったもんで、こちらの方で参加していただきました〈町名〉の〈名前〉と申します。今、市長さんのお話がありました中で 2 点なんですけど、まず耐震化率ですね 89%、全く私は実感していません。それから県のシミュレーションですね、それには来ないという話。それは、確かにシミュレーションはそうでしょうけども、今、毎年毎年いろんな災害があつて起こつてる中で各地区ですね、明らかに想定を超えている被害は毎年出てきます。雨ですとか、風ですとか、どの市町村でもですね、実際でもある程度昔からシミュレーションしてると思ふんですね。でもそれを超えてる時代がもう毎年毎年目にするわけです、報道で。その中でやはりそのシミュレーションというのはあくまでも、津波はこの程度でしょうという一つの目安として考えるべきであつて、それを超えることは当然ありますので、だから安心ではなくて、それは一つの住民に対する意見目安として示してもいいですけども、やはりそれに対してのこういった場合のですね、対策というのは必要と思ふんですね。

それで私は柏崎市でもですね、昨年 7 月に、これは県とともにでしょうか？国ですね、道路整備を要請したという報道見ました。内容としては、米山インターがそれからもう少し手前に持ってくるかですね、まず野田から柿崎にぬける小村峠ですね、そこはとても難所ですからトンネル掘る、あと一つはスマートインターチェンジを作るという話がありましたけども、確かに周辺の方の整備はそれでできるんでしょうけども、一番問題なのは、海に近い松波地区ですとか、原発も近いですし、この方々が今避難するとなると、当然海に平行した道路しかないわけですね、幅員のあるものは。そうしますと、結局インターチェンジが近くなるだろうが、トンネルができようが、そこへたどり着けないわけですね。それに対して思ふんですけども実は私、西中通地区ではですね、その会田市長さんの頃にですね、平成 20 年に町の柴田松波町線というですね都市計画道路、計画がこれ以前からもう何十年も続けられてるんですけども、その計画道路があつてですね、今の橋場団地、松波保育園さんからですね、鯖石川側に抜けて、しばらく中にはもう用地の取得もできているし、土持つてある。これはもう何十年も前からあります。その先の 1 号線を越えて 8 号線を通つて、新しい 8 号バイパスで行けるといふ三つの計画があるんですけども、これ平成 24 年にですね説明会があつて、地元の方に理解してくれといふ話がありまして、結局その後またそれから 29 年ですが、話があつて、そのときにはお金がかかるいろいろあるんでしょうけども一応話は消えましたといふことで話が終わってしまったんですけど。道路というのは、この地区からですね避難するときに市内から遠ざけられて、しかもほとんど田んぼですから、これから先、仮にですね、スマートインターチェンジを作るのであれば、バイパスからさらに北東に抜ける道、ほとんど田んぼなので、移転のですね、必要ない年が非常に多いです。であれば、なぜこの昔からこの道のですね、道路整備を進めないかもしくは国に要請しなかったのかその点はちょっと私、疑問に思つたので質問させていただきました。

**市長：**はい、ありがとうございました。まず 2 点いただきました。一点は、耐震化という部分がなかなか実感されてないというお話でした確かにそうかもしれません。いいけれども、実際に数字は 89%という形で 90%近い方々が、住宅が耐震化されているとい

うのはこれはもう間違いない事実でございます。それから、津波想定を超える部分もあるんじゃないかと確かにそれは絶対絶対というか、ありうるだろうと思ってます先ですから先ほど申し上げましたように、今回の能登半島地震の中での、3m の津波が来ると、割れ残りで3m の地震が来るということに関しても、さらに余裕を見て今映ってますけれども、さらに厳しい4.5mの想定をしても、3mの想定に対して4.5mの波浪を持ってしてもまだ大丈夫だというふうです。

確かに、もっと来ることもあるんじゃないかと言われれば、可能性はもちろんゼロではないわけですので、そういった場合にはということを含めて、私達としては、その津波の警報の出し方も含めて今、最終的な調整をして、皆さんにお知らせをしようというところでございます。

それから道路整備に関しましては、栄田松波町線の部分はちょっとここで詳しくは申し上げられませんけれども、先ほどの田んぼばかりだからすぐ道路できるじゃないかというふうなお話なんですけど、田んぼにももちろん地権者がいらっしゃるわけなんで、なかなか難しいところです。

はっきり申し上げて、チャレンジしてます。チャレンジしてます。諦めてません。踏切の改良も含めて、多分日本で一番面倒な踏切だと思いますこの踏切は、含めてチャレンジしているということだけお伝えしたいと思いますご心配の部分、そしてまたご提案も含めて、本当にありがとうございました。

**司会：**はいそれでは次の方がいかがでしょうか？

**質問者：**はい、〈町名〉の〈名前〉でございます。1点お願いしたいんですが、今ほどの質問でもございましたが、避難経路の整備ということで、桜井市長さんが市長さんそれから、知事さん、村長さんと国の防災大臣に昨年の秋頃、陳情、陳情というか要望書を提出されたかと思いますが、五つほどあったと思うんですが、今ほどお話の8号バイパスの早期供用開始。それから小村峠のトンネル化、米山インターからの移設、そしてスマートインターの設置というふうな項目があったかと思うんですが、あれから半年ほど経過しておりますが、その国の要望に対する対応はどんなものかその辺についてちょっとお尋ねしたいと思いますんですが、よろしくお願ひします。

**市長：**ありがとうございましたちょっとお待ちくださいね。ちょっとちっちゃくて申し訳ありません。今ほど、〈質問者〉さんの方から出てきたのは、ちょっと小さくて申し訳ありませんこれは、ここにあるのが原子力発電所です。この円は皆さんの住んでいらっしゃる、PAZ5キロ圏内です。5キロ圏内です。主に松波町の方々も含めて、主に西、正確に申し上げて西南方向に避難するというのが、避難ルートになります。柏崎市民の中で、糸魚川、上越、妙高の方に避難される方が、全体で6万人、7万7000人のうちの約6万人ですから、75%以上の方々を上越市や糸魚川や妙高の方に避難するという形になります。

それに対して、今ほどご紹介いただいたネックになるのは、米山大橋が風で止まってしまうときの対応ということで、米山インターチェンジを米山大橋の東側の方に移してもらいたい、もしくは緊急時にここにありますサービスエリアに入れるように、米山大橋を渡らないでも手前から入れるようにしてもらいたいということが一つ。

それから、高速道路も8号線も一昨年12月止まってしまったわけです。そうすると、米山大橋が何だろうと止まってしまって2本とも8号線とも高速道路も、一昨年の12月は止まってしまったわけです38時間51時間となると、上越、糸魚川、妙高の方に逃げられないじゃないかということで、それに対応するために、353野田の交差点から入っていく小村峠に向かっていく、ここにトンネルを開けてもらいたいと。

ここは残念ながら11月の下旬、今でもそうですけれども、冬期間は雪のため通行止めになっています。ここにトンネルを開けてもらえれば、海沿いの8号線や、高速道路が駄目でも、

糸魚川・上越の方、妙高の方に避難できるじゃないかというのが二つ目です。

三つ目は、この 353 のここに、つまり上方にスマートインターを作ってもらいたいと。もしこちらの方が動けなくなったら、こちらの方はという米山大橋の方に行くことが動けなくなったら、また柏崎インターで戻らないと、柏崎インターに戻るということは、要は原発の方に向かって戻るとい形になってしまいますので、なるべくそうならないように 353 の上方に今のバス停があるあたり、あの辺にスマートインターを作ってもらいたいというのが一つ。

それからスマートインター繋がりと言えば、8 号線のこの曾地にスマートインターを作って、これは刈羽の方々も含めて、そういうご要望がありました。ということを含めて、5 つ要望を出させていただきました。これは花角知事と品田村長と私との 5 つの要望で出しました。説明はいいけども、返事はいつ来るんだよということですけども、そう遅くない時期に来るだろうと思います。そしてその内容は満額回答になるかどうかは別ですけども、私の確信では昨日、実は先ほど申し上げたように東京に行ってきたばかりですけども、満額回答に近いお答えはいただけるだろうと期待してますし、確信をしています。

**司会：**はい、よろしいでしょうか。はい。他でご意見ある方。

**質問者：**〈町名〉の〈名前〉でございます。今日の市長みずから大変わかりやすいご説明いただいております。今まで内閣府ですとかエネ庁さんですとか県の説明をお聞きしましたけども、今日の市長の説明が一番わかりやすくですね、非常に良いためになりました。私から二つ質問がございます。市長は今日、自らお越しになってるんで、お聞きしますけども、かねてからね、市長は条件付きで再稼働を認めるというふうにおっしゃってますが、条件、その条件付きという条件は、再度、もう一度お聞かせ願いたいなというふうに、できれば具体的に教えていただければと思います。

それから、知事も、おっしゃってますけども、再稼働のためには地元の理解が必要だということでおっしゃってますが、桜井市長とするしまして、地元の理解を得るには、どのようにすればいいかお考えをお聞かせ願いたいなと思います。以上です。

**市長：**はい、ありがとうございます。まず私が出している条件でございますけれども条件というのは、二つ、二つというか、2 者に対して出しています。一つは東京電力に対して、一つは国に対してでございます。国に対しては今ほど申し上げましたように、この知事とともに出した 5 つの要件、先ほどご説明申し上げたことをやはり実現してもらいたいということは大事な大前提になっております。先ほど少し 5 つの中に一つ大事な物言い忘れてましたけど、8 号線バイパスを 8 号線バイパスを早く開通してもらいたいというのが第一番です。もう大前提です。8 号線バイパス、いつになったらできるんだというふうなお話でございますけれども、これがやはり早くできるということは大事です。

それも含めて先ほど申し上げたように〈質問者〉さんからのご質問にありましたように、かなりいいとこまで来ていると、あとはいつお返事をいただけるかという段階になってると思っております。

さて、もう 1 者、つまり、東京電力に対してどういう条件を出しているかということでありますが、先ほども少し申し上げましたけれども、要は使用済燃料が、核燃料がサイト内に 97%、7 号機の部分は 97%溜まっています。6 号機も約 92%となっています。残り 3%とか、残り 8%しかないわけです。これみんなで難儀して動かすことになったとしても、すぐに止めざるを得ません。なので、再稼働までにはおおむね 8 割以下にってもらいたい。原発の柏崎刈羽原発サイト内でも今実は全体で 81%埋まっていますけれども、号機間輸送、7 号機いっぱい 6 号機いっぱいになってるものを、他の号機に移すか、もしくはむつ市に今、ほぼ完成している使用済み核燃料の一時保管施設がありますけれども、そちらの方に出していただくと、概ね再稼働までにはおおむね 8 割を目指して頑張ってもらいたいというのが大事な条件



の一つにもなっています。

もちろん経済的なことも、今まで以上に地元のことをしっかり考えてもらいたい。今まで以上に安全に心がけてもらいたい。今まで以上に、原発だけではなくて、再生可能エネルギーにも東京電力として力を振り向けてもらいたい。

いったいくつもの7つの条件を挙げたというところでございます。目の前で一番大事な条件は、私は申し上げていますように、使用済み核燃料が、少なくとも、再稼働までには、おおむね8割以下にしてもらいたいというのは一番大事な条件だというふうに考えております。地元の理解をということはですね、私に聞いていただくよりも、知事に聞いていただきたいと思うんですけど、私自身は、先般の3月21日、市議会の最終日において、再稼働を巡る請願書や商工会議所を初め団体から、いくつかの団体から出された請願が採択をされました。私は、議会の意向というのは、市民の皆さんを代表する議会の方々の考え方というふうに考えておりますので、議会の請願の採択といったものは地元理解の大事な一番大事なワンピースであるというふうにお答えを申し上げたところであります。

しかし、そこでは拾いきれなかったいろいろなご意見もあろうかと思うものですから、今日、この会場を皮切りに全市内11ヶ所で、皆様からいろいろなご意見をお伺いしながら、最終的に国からの先ほどのお返事、東電からの返事、そういったのを見ながら、私は再稼働に意義を認めるという立場ですので、そういったものに返事をしたいというふうに考えておるところでございます。

**司会：**はい。他の方はいかがでしょうか。はい。

**質問者：**〈町名〉の〈名前〉と申します。関わってる仕事が高齢者から子供までの見守り等やってるものなんですけど、自分も避難原発の避難訓練で何回か参加させていただいて、柏崎PAZでやりましたんで、自分のところが糸魚川2回ほど行かしてもらいました。

それでここは避難経路所ということで行ったわけなんですけど、その後についてはどうしたらいいんですかと質問したときに、的確っていうかうまく回答もらえなくて、その後はどのようになるのかなというので、しつこく聞いたところ、コミュニティ単位でバラバラにならないように過ごせるようにしてくださいというふうな形で、どこにどういうふうに自分たちが行くのかっていうことまでは教えてもらうことができませんでした。

そういうことから、その後、また、今度は冬場の防災訓練にも出まして、あのときは冬で雪があって、いうことで行ったんですけど、あのときはまた、糸魚川まで行くのかなと思った。糸魚川まで行かないで米山インターでお帰りだったんで、ちょっと残念だったんですけど、あのときは雪がなくて、実際雪のある時にやってなかったということがありまして、いろいろとやった中で、高齢者も実際に車いすを使ったりして参加していないし、迎えに来るバスも、来れない状態の中で1ミリシートベルトの中で、ドライバーの方も来なきゃ駄目だし、そこに市の職員とかも来てくれるところないだお話を聞いたんですけど、それを想定した訓練も必要じゃないかなと思ひまして今回話をさせていただきました。よろしくお祈りします。

**市長：**はい、ありがとうございます。今の〈質問者〉さんのお話はご自分でもご高齢者のお世話をさせていただいている中で、避難訓練、何回か出たけれども、避難経路所を通過して、その後のお話、避難所のお話ですね、皆さんよく勘違いされるんですけど、避難経路所と避難所が違うんで、避難所どこなんだというふうなご質問される方もいらっしゃるんですけど、これを皆さんにお話しちゃうと、直接避難所に向かっちゃうんもんですから、そうすると大混乱しちゃうわけなんです。なので、あくまでも避難経路所を通過して、それから皆さんはこちら、皆さんはこちらというふうにお伝えするというのが、避難経路所の意味合いでございますけれども。特にそういった避難の中にあつてご自分の経験から雪が降ってないときにやってないじゃないかというようなところなんですけども、実は、今年も雪が少なかったんですけども、西山の妙法寺で積雪中、たまたまその朝から降り始めたんですけども、中でやりました。

確かにほとんど雪がない状況でしたけども、一応想定してやりました。確かにご指摘いただいたように、雪があったらば、こんなことやってられないだろうというような例もありました。例えばストレッチャーでお年寄りを乗せていくわけですけども、ローラーがついてるわけですけど、雪のときそんなもん使えないですよ。

ストレッチャー押すなんてできないわけなんで、そのときはやっぱり何人かが、抱えてやらなきゃ駄目だというような訓練もなされてなかったりとかあります。それから、雪の訓練に関しましては、知事もご参加いただいた3年前、3年、3年前だったっけ、3年前に鶴川の市野新田というさらに奥のところで、雪の中での避難訓練も行いました。陸上自衛隊の方々から雪上車も、導入していただいて、また大型のヘリでのホバリングをしながら、結果的に車も通れなくなったようなときにどうするんだということも含めた避難をしました。

私自身も自分で車を運転して雪道を運転したこともありますけれども、いずれにせよ、ご指摘いただいたように、確かに通常の場合よりも、雪の中での避難というのは非常に厳しい、特に夜間となると厳しい。私自身の結論は、夜間、もし大事が起こった場合には、雪の中で、避難せざるようなない場合には、PAZ 圏内ならともかくも、UPZ の方々は、やはり屋内退避していただくのがより安全だというふうに思いました。ご高齢者が多い中で、夜間に車で避難するというのは非常に危ないというふうに思いました。ただ、ご心配もあろうかと思いますので、そういったことも含めて、また国県とも、夜間の冬季間の雪が積もってるときの避難に関しては、またシミュレーションを重ねたいというふうに思っています。

**司会：**ご提案ありがとうございます。はい。はい、お願いします。

**質問者：**〈町名〉の〈名前〉と申します。市長どうも大変ありがたい説明ありがとうございました。皆さんというか市、市長から防災・原子力課の方は来てますけど、ご存知なんですけど高浜コミュニティセンターに原子力、陽圧設備がございまして。

それで、去年の10月、伊藤原子力防災担当大臣から視察していただきまして、危機管理監が防災・原子力課の方が総勢でみんな準備ありがとうございます。それでですね、陽圧設備、いざ、事故があった場合、市の職員の方が高浜コミセンに来てくれるって言うんですけども、柏崎市内からのあの高浜地内来る場合どうしても原子力発電所の前通らないと、これないんで、もしくは迂回すると116号線を迂回してくるしかありませんので、そうすると相当時間がかかると言うんですよ。ましてや複合災害、地震の後、道路がどうなってるかもわかりませんので、それで結論から申しますと、うちの高浜コミセン内に、10年ほど前にもうできたんですよ、陽圧設備が。平成27年なんですけども。それから年間の自主防災委員のコミセン委員会を中心に、要するに試運転をやってんですわ、年間二、三回ですかね、それいざどういうことが起きても、自分たちでできるように、そうやってますので、高浜地区、村上に逃げることに、逃げるというか避難することになってんですけども、皆さんが全員逃げるということにはね、できてないと思うんですよ、要するに、高齢者や要支援者の方は、真っ先にコミセンにもう来て、そうすれば、やはり要は設備を運転しなきゃいけないので、我々といいますか、そこにいるコミセンの職員がやらざるを得ないと思ってますんでそれをやらせていただきたいというか、それのお願いでございまして。以上でございまして。

**市長：**はい、ありがとうございます。宮川も、古い歴史、この原子力発電所を巡っては、古い歴史があったわけですよ。私ももちろんその当時はまだ生まれたか、生まれないうなときですけども、承知をしております。

そういった中で、高浜コミセンに陽圧施設がある。しかし、いざというときにそれがすぐに鍵が開けられなかったりとか、動かせないようじゃ困るじゃないかということとございまして。職員とも意思疎通をしていただいているようでございまして、そういったことにならないように、いざというときには、地元の方々、もしくは責任ある方々がすぐにこの陽圧施設を機能させることができるように、また改めて私ども、国や県とも情報共有しながら、確認を

させていただきたいと、せつかくの施設、いざというときに機能することができないということにならないように、必ず仕組みを構築させていただきたいと思っております。

**司会：**はい。他にそちらはい、どうぞ。

**質問者：**〈町名〉の〈名前〉と申します。単刀直入にお伺いたします。原子力発電所が立地する自治体として、柏崎市は適切ですか。以上です。

**市長：**私が答える立場ではないだろうと思っておりますけれども、原子力発電所を建てる立場から、つまり電力会社から、もしくは原子力、日本のエネルギー政策を進めるという観点で言えば、国の立場から考えたならば、この柏崎市がふさわしいかどうか、ふさわしいと考えたから、多分、柏崎に決められたんだろうというふうに思っています。

一方、ご承知のように、柏崎刈羽原子力発電所は、今から55年前、昭和44年、1969年に柏崎市議会が誘致をして、その前には、3月6日だったでしょうか、柏崎商工会議所が誘致をして、できるようになった原子力発電所でございます。

その当時、なぜ、原子力発電所を選んだのかということに関しては、ご承知だろうと思っておりますけれども、陸の孤島、今でも陸の孤島じゃないかと言われれば、申し訳ありませんけれども、その当時は、さらに陸の孤島と言われて、曾地峠と米山峠に挟まれて、何もないじゃないかというところで、荒浜の方々申し訳ありません、荒浜の砂丘に自衛隊を誘致するか、原子力発電所をするか、という選択肢もあったというふうに承知をしております。

自衛隊を選択せずに原子力発電所を誘致した。私は原子力発電所という、自衛隊という選択肢もあるだろうと、その当時はありだったんだろうと思っております。しかし、原子力発電所を誘致し、石油、日本石油発祥の地である柏崎が、エネルギーで日本の経済を支えてきたという歴史を考えると、さらに石油の次のエネルギー、原子力で日本の経済を支えたいと、いうその当時のご決断というのは、私は後輩として誇りを持つところでございます。

**司会：**はい他にございますでしょうか。今マイクをお持ちしますんでお待ちください。

**質問者：**〈名前〉と申します。社会福祉施設の責任者でありますので、その立場で要支援者、いわゆるその障害者の方々の安全をどう確保するのか、確保できるのかということで現場での悩みを、お話をしてですね、お答えをいただきたいと思っております。

めぐにはですね、常時14人、20人、今契約をされてますけど14人ぐらいの人が毎日多い。一生懸命働いています。〈店舗名〉さんのお手伝いとかですね、高速バス停の掃除とか。施設はコロナでもって非常に打撃を受けまして、今ランチ、まだ休んでおります。外部からのお客様からの障害者の方への感染、これがあってはならないということが一番気にしておりますので、その代わり、クッキーをですね、一生懸命作って販売を伸ばしているところです。何を悩んでいるかといいますとですね、この原子力防災に関する「社会福祉施設」としての避難計画を作りなさいということを、そうですね、もう4年ぐらい前でしょうかね、県の方から、これは義務ではなくて依頼としてきました。

依頼と義務は違うってことは市長もご存知だと思いますが、例えば水防法なんかでもって、河川の氾濫に対する防災訓練、防災計画を立てなさい。これはあの、河川の方の法律がありますから、これ義務になりますね。私も作って、市の方に届けました。

依頼はですね、これはあくまでも依頼であって、作るか作らないかはこちらの判断に今、今、今現在もあると思う。私は実際は作っておりません、作っておりません。何で作らないかという、紙に書いて、その県の方からですね、雛形が来るんです。ここに例えば「社会福祉施設」を書き込んだり、そういうふうにするればできる雛形は、マニュアルが来るんですけど、そこへ当施設を書き込んでみてもですね、実際やれないことばかりなんです。

これは紙に書いてこれを出して、当施設では避難計画を作りましたよと、だから大丈夫です

よと、私は言えない。誰に対して大丈夫ですよって言えないかという、おられるご利用者さんに対して、あなたの命を必ず守りますよということと言えないんですよ、この紙に書いた避難計画だけでは。障害のある方はですね、環境が変わったり、状況が変わったりするとパニックです。で、これはもう他の同業の方にもお伺いしても、そうだよなってことになるんですけども、実際どう逃げるかということになると、あの県なんかでは、ここに車を差し向けて逃げられるようにしますよというふうに考えておられるようですけども、例えば、来てくれたとしてもですね、利用者さんが、県の職員さんより、あるいはその東京電力の職員さんが手伝いに来てくれても、なじんでそこへ乗って逃げるなんてことはまず不可能です。はっきり言って、日常的にお付き合いをしている、お世話をしている私達が、同行をして初めて、一定程度の落ち着きを持ってですね、逃げるができるだろうなというふうに思っております。ですから、運命共同体じゃありませんけど、もしもこんなことが起きたときは、私を先頭にして、逃げるしかないなというふうに私は本心考えています。

もう一つの悩みは職員さんです。職員さんのうちに、みんな女性ですけども、みんな家庭を持ってる女性ですけども、この人たち、実はみんな、自分も逃げなければならない立場の人たちです。その人たちに対して私がここにどどまって、利用者さんと一緒に逃げてくれよということ私は職命として言いません、職務命令として言えません。

なぜかというんですね、もしそうしたときに、その人たちがまずみんな自分たちの家庭を持ち、一緒に逃げなきゃならんってそういう立場であるということですね。もう一つはですね、もしも私が一緒にやってくれよと言ったときに、彼女たちが負うリスクに対して私が責任を取れない、法的な裏付けがないです。この保障に対する例えば消防署の職員の皆さんとか、警察署の職員の皆さんとか、一定程度ちゃんと法的な裏付けがあると思うんですよ。バック、何かあったときにそれを保障していただく場合に、一番最初にですね命を落とすということに対して補償していただくというふうなバックがあると思うんですけど、1 民間の事業所がですね、職命でもって出したときに、もしも何かあったときに私は彼女たちに対する何の補償の、あの、背景もありません。

こういう法整備をとにかくしてもらわないとですね、原発なんかを抱えたところでは何もできなくなる。こういう話でちょっとあれなんですけど、泉田さんが県知事をやっていたときに、福島原発事故を起こしたんですね。あのときに職員の派遣を要請されたそうです。これは私、泉田さんの講演でお話を聞いたんで、また話を聞いたわけじゃないんですけど、泉田さん本人の説明の中で、さて職員を派遣しなければいけないというときに、自分は職務命令を出せなかった。

どう言ったかという、行ってくださる方は手を挙げてください。要するに自由文ですね。それで手を挙げてくれた人が言ってくれたんです。私は県知事ではあるけれども、あの目に見えない放射能に立ち向かう人たちに対して、行ってこいというふうに私は出せなかったと。それがやっぱり、本音だと思うんですよ。私も今はそのところに立っていてですね、これ、とてもできないなというふうに考えております。ですから、そういう法整備ね、原子力をやる以上、それに立場からして、それに対する法定、法的なそのバックアップの法律の整備で、これも早急ですね、動かそうというですから、これをやっぱり考えてもらわなきゃならないなと思っております。

それから今までの質問された、これちょっと今の私が申し上げたのは、この今の2点なんですけれども、今までの質問された方に関連してなんですけれども、例えばその道路ですね、今、市長さんは満額回答じゃないけど相当いいとこまで行くはずだっというふうにおっしゃいましたけれども、市町村はその予算付けができればいいというふうにお考えですか、私はそうじゃなくて、やっぱり予算がついて道路ができて、さて逃げられますよという準備が整って初めて再稼働ではないかというふうに思いますがその辺いかがでしょう。

市長：

はい、前段の部分、最後の道路の部分、2点いただきました。

まず、公務員や消防、公務員ですよね、公務員の場合にはしっかりとした職務命令、泉田さんの事例は、ちょっとイレギュラーかもしれませんが、それなりの対応ができるけれども民間人の方々が、今の施設もできて、多分 20 数年 30 年近くなると思います。オープニングのときも私もお招きされて伺いました。少しながらの記憶が残っています。一生懸命働いてらっしゃる方がいらっしゃって、そしてまたサポートしてらっしゃる方がいらっしゃることも頭に残っています。そういった責任ある方々が職員を含めて、民間の方の立場で職務命令できないじゃないかと。いざ職務命令に近い形をお願いをして、職員の方々が、その障害をお持ちの方々に対して、お手伝いをして、いざ事故に遭われたらどうするんだというようなことを含めた法体制が必要だというご意見だろうと思います。

原子力災害に関しては、原子力災害対策特別措置法という法律がございます。しかし、今ご指摘をいただいたような民間人の方々が、民間の方々が、職務の中で行った職務命令等に関して、それによって生じた被害に対して、国が、もしくは電力事業者がどういうふうに補償するのかというのは、法律のところでは決まっていなかったらというふうに私も思います。福島の事例があるわけでありましてけれども、そういったことも含めて、やはり今のご指摘、法整備と民間人の方々が、いざというときにどういうふうな責任を負ったときにどういうふうな保証ができるのかということは、法整備、やはり欠けている部分だろうというふうに思っています。私自身ももう少し勉強し直しながら、その法整備に関して、やはり提言もさせていただきたいと思っています。

道路に関しては、厳密に言えば、おっしゃる通りです。予算づけができて、実効性ある避難とは言えない。金ばかりでも、道路が作り始めての計画ばかりできて、全くそれは事実だろうと思います。

しかし、世の中原子力災害のみならず、あらゆることに同じことが言えます。先ほど申し上げた、地球温暖化も同じです。それまでどうするんだということになるわけです。ですから、やはり、歩きながら走りながら、そしてその速度を上げながら道路整備の一刻も早い整備を促していくのが私の仕事だろうというふうに思っています。

しかし、現実に厳密にですね、厳密に指摘をされるならば、確かに予算がついたからといって、計画ができるからといって、実効性ある避難ができるということにはならないというのはご指摘の通りだろうと思います。しかし私は、現実の中で、今まで以上に、計画を早める、そして新たな指摘を含めて、やはり国に対して申し上げてきたところがございますので、国もそれに対して真摯に受け止めて、動き始めてくださっているというのは、これも事実であるということでご理解賜るしかございません。

**司会：**今、マイクをお持ちしますのでお待ちください。

**質問者：**はい、〈町名〉の〈名前〉とありますがよろしくお願ひします。今日のですね、市長さんの初めのお話ですが、本当に感動いたしました。非常に素晴らしいなというふうに思っています。

私の方で2点ですね、質問させていただきます。

市長さんのコメント等の件であります、⑤番ですね、東京電力には1号、1号機から5号機の廃炉計画を出さしてもらいたいという考えに変化はない。もちろん、5つ全てを配慮してもらいたいということではないこの文章ですね、私は一つ安心したんですが、私、6号機、7号機の再稼働には賛成しています。7号機もあるのにですね、また、たった2号機だけではちょっと不満であります。それで前に市町村の方では、2号、6号機と7号機の2号機ですね、2号機だけしか稼働させないぞというふうな、私はそういうふう聞いたことがあります。多分、私の聞き間違いだかもしれませんが、でもこの文章ではですね、もちろん5つ全てを廃炉してもらいたいというふうなことではないというふうなことですね、これちょっと安心したところあります。できましたら、2号機だけでなく3号機4号機ぐらいはですね、やってほしいなというふうに思っています。

2 点目行きますが、今、今、いろいろ道路の件であるとか、放射能の件であるとかですね、いろいろ話がありました、私は規制庁の方ですね、規制委員会、規制庁の方で十分調べた上で、安全性を保障しているというわけでありまして。絶対なんていうか、事故はですね、出るのではないと言いながらですね、もう限りなくゼロで、あることをその、想定しながら、規制庁としてはですね、やっているわけですね。それから今度、この IAEA の方ですね、もう来て言われるんですかね、再稼働についてですね、どういってるかな、その 2 号機についての詳しい検討しているというふうな話であります、というふうなことでですね、多分、私はゴーサインがきつと出てくるんだろ、というふうなことを期待していますし、多分そうだろうと思ってるんですが、いうふうなことでですね、我々はそれを持って、結構安心できるんじゃないかというふうに思ってますし、いろいろの心配があるんだろ、けどもですね、それが一番安心を与えるところじゃないかというふうに思ってます。それでも心配だ、心配だというふうな人がおりますけども、それはちょっとどういったらいいかな、過剰な心配だなと思ってるですね、あるいはそれで、なんていうかな、メディアをですね、使ってるですね、そういうふうな拡散しながら不安を煽っているような気がしないでもないというふうな気がいたします。ちょっと失礼な言い方かもしれませんが、そんなふうに受け取っているところがありますというふうなことで、結構大方の方ですね、一見じゃないかと思っているところがありますというふうなことで、意見とですね、それから質問をさせていただきました。以上です。

**市長：**はい、ありがとうございます。荒浜の皆さんにおかれましては、〈質問者〉さんも含めて一昨年ですか、夜間の避難訓練にもご尽力いただきありがとうございます。いつもご協力いただいたり、この前の地震のときには、車が渋滞した繋がった様子も写真を撮ってご提供いただいたりして本当にいつもありがとうございます。

さて、私の原子力発電所に対する考え方、再稼働は、6、7 ばかりじゃないのかというふうな部分は、これは本当に〈質問者〉さんのちょっとした聞き間違いで、私はまずは 6、7 だけども、ここでやめると 6、7 二つだけで終わりというふうに申し上げたことは 1 回もなく、ただ同時に 7 つ全部は絶対に認めませんと、7 つ全部は認めませんということは何度も申し上げて、下に書いてありますように原子力大国のアメリカでさえも、一立地点では 4 つでございます。世界でもこの前 11 月に行ってきましたけど、ドイツでも 4 つです。ドイツはもう原発全部やめることにしましたけど、やめましたけども、4 つあります。1 立地地点で 7 つも 6 つも置いてあるのは日本だけです。

そういった意味で、私は 7 つある原子力発電所のうち、2 つで止めると、辞めるというふうなことを申し上げたことはありません。

それから 2 番目の規制庁の審査が安全をきたしているけれども IAEA という世界原子力機関も来てるんじゃないかという部分で、安全性が確保されているんじゃないかというふうなご質問だろうと思えますけど、私もそう思いますこれは確か私が承知しているところでは、東電自らが IAEA に審査してもらいたいというところだったんだろうと思います。

IAEA も信じられないと言われれば、何を信じればいいかわかりません。実は私、今から 20 年、25 年程前に、IAEA に行きました。本部はウィーンです。そこで日本の原子力規制のあり方等、世界の原子力規制のあり方に違いがあるのか、ないのか確認しに行きました。結果、私にその説明をしてくださったのは、ウクライナの方でした。その当時はまだロシアです。というように、IAEA には、世界各地からの原子力技術者、研究者が集まっているところです。公平に、そして研究をしている、ジャッジをしているところです。

そういった IAEA が今回、柏崎刈羽のいろいろなトラブルを含めた対応状況をチェックするというのは、私はそれを求めるというのは、東京電力の姿勢、また国の姿勢というのは、やはり私は歓迎すべき姿勢だろうと思っています。

IAEA の審査を経て、安全だというふうになれば、第三者から見られた安全性といったものが確保できるというふうに思っていますので、私自身も、〈質問者〉さんお話しされるよう

に、よりこの安全が確度の高いものになるというふうに歓迎するところでございます。

**司会**：はい、すいません、時間も迫ってきております。最後の質問とさせていただければと思いますが、今マイクをお持ちます。

**質問者**：〈町名〉の〈名前〉と申します。ええ。避難計画、再稼働のことですけれども、避難計画が策定されない限り、再稼働の議論に入らないということをおっしゃる方もおられますし、マスコミもそういうことをする方がおりますけれども、避難計画が再稼働に結びつく必要十分条件ではないと私は思っております。避難計画はもちろん大事ですけども、これはあの、策定しつつ、時間もかかります。再稼働については、新規制基準がクリアされたということで、市町村も、県も説明会等、それから今のような懇談会と、公聴会等を開いて、再稼働についての議論が進められているわけですけども、市長としまして、避難計画がなければ、再稼働の議論に入れられないのではないかとおっしゃるのでしょうか。いや、私はあの、別に並行して、議論すべきだと思っておりますけれども。

**市長**：はい、ありがとうございます。もしかしたら、大湊でいらっしゃいますので、原子力発電所に一番近いところに住んでらっしゃるんだらうというふうに思っておりますけれども、もしかしたらサイト内から見たら数百メートルですよ。

そういったところにお住まいの方が、避難計画と再稼働というふうにどういうふうに考えるんだということがございますけれども、今でもご承知のように、避難計画はあるわけがございます。しかし、いろいろな事柄が起こる。例えば、この前の元日の能登半島の地震が起こって、能登半島においては、たくさんの住宅が倒れてしまったという部分もあるわけですので、そういったことを含めて、どんどん今ある避難計画をさらに安全の高いものにしていくということは、今、〈質問者〉さんおっしゃったように、これは同時並行していかなければいけないと。

決して足を休めることなく、どんどんいいものにしていかなければいけないというふうに考えています。完璧なものというのは、私はいつも申し上げているところで原子力政策だけでなく 100%というのはあり得ないと思っております。少し 100%を目指していく過程の中に、私はより大きな安全が生まれてくるというふうに考えておりますので、お話されるように、先ほどちょっと申し上げたように CO2 出してる、日本のエネルギー電気は 7 割が火力発電で CO2 出してる。原発も動かせない。私達は、電気を使わないようにできるのかと、それはできないわけです。少しでも安全で、そして少しでも CO2 を出さないような発電方法になるべく急いで変えていく、そのために努力していくというプロセスが、今、お話されているように、同時並行しながら、今まである、今ある避難計画をより安全なものにしていくという作業を、私もおっしゃる通り続けていきたいと。そして、再稼働を同時に進めていくと、いうふうに私自身も考えております。

**司会**：これまでありがとうございました。質疑応答の時間はここまでとさせていただきたいと思っております。たくさんのご意見、それからご質問いただきまして大変感謝申し上げます。以上で柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会を終了とさせていただきます。遅くまでお付き合いいただきまして大変ありがとうございました。

**市長**：本当にありがとうございました。まだまだ足りない部分あるかもしれませんが、いろいろまたご意見も承りたいと思っております。本当にありがとうございました。